

# 平和を削ってはなりません！

## 広島平和祈念式典への中学生派遣 これまで市内全校24人⇒8人へ



すべての国のあらゆる核兵器がすみやかに廃絶され、恒久平和が確立されることを強く願う…こういう非核平和友好都市宣言をしている上越市で思いがけないことが起きました。これまで市内の全中学校24校から広島市での平和祈念式典へ生徒の代表を派遣していましたが、新年度からは8校に減らすというのです。

13日の市議会総務常任委員会で私は、昨年8月に広島平和金式典に参列した中学生の感想文を手にこの問題を取りあげ、「これまで私は派遣する中学生は各校から2名にしてほしいと訴

えてきた。それだけ生徒を広島へ派遣することの意義が大きく、平和の担い手になってくれると思ってきたからだ。どうしてこういうことになったのか」「行革というのは場合によっては(お金を)増やすことも必要だ。大事なはこの事業をどう育て大きくしていくかだ。担当課として踏ん張らなきゃだめだ。平和というのは金で計算できるものではない。上越市は非核平和友好都市宣言を行っている市。行革の名のもとにこういうことをやるのは間違いだ。行革は平和をけずってはならない。6月議会で(24校

派遣に)戻してもらいたい。そうでないと平和宣言が泣く」と訴えました。これに対して市側は、「これまで大きな効果はあった。一方で非常にハードな日程もあって、子どもたちに負担をかけるという面もある。学校のいろんな行事もある。人数についてはそういうことを考えてみた。中学校への巡回平和展は継続を決めた。決して削減ありきではない」などとのべて譲りませんでした。



厚生常任委員会は11日、「基礎年金等の改善と年金の毎月支給を求め陳情書」を審査しましたが、賛成少数で不採択としました。この陳情書は年金者組合上越支部(井上文夫支部長)が市議会に提出していたもの。2013年10月以降、年金額が合計で3・4%減額された中で、購買力の低下や生活保護世帯への移行などが進んでいるとして、老齢基礎年金などの支給額の改善と年金の支給を隔月支給から毎月支給に変更するよう、国会、政府関係機関に意見書の提出を求めています。

### 基礎年金等の改善を求める陳情は不採択

これでは市民も納得しません。今後もこの問題を取りあげていきますので、ご支援よろしくお願いします。



【ネコヤナギ】ヤナギ科の落葉低木。漢字で、「猫柳」と書きます。花穂は猫の尻尾に似ています。花期は通常3月～4月ですが、今年は2月から花を見ることができました。花言葉は「自由」。写真は柿崎区米山寺にて2日、撮影。

この日は陳情者団体を代表して井上文夫さん(写真)が、「この上越市での年金(共済年金を除いて)は2013年ベースで903億円支払われていい額だったが、いまは年金額の減額で年に30億円減少している。関係者の生活は厳しくなり、税金の滞納や生活保護への移行が進んでいる。意見書を提出してほしい」と訴えました。

趣旨説明後の委員会審査では、「趣旨はよくわかるが、将来に不安を持つている若者もいる。いまの額の中でやりくりしていかねばと思っっている。日本はあらゆる面で手厚く手当てされている。心苦しいが陳情には反対だ。毎月支給は手間がかかる」などのべて、反対する委員が多数を占めました。

賛成したのは、日本共産党議員団の橋本委員だけでした。同委員は、「消費税の引き上げを前に年金者の生活はますます苦しくなっている。趣旨に賛同する」などのべました。

## はしづめ法一の活動レポート

No.1901 2019.3.17  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第五四八回 終わりはつもん

えっ、終わりはつもん？——三月上旬のある日のことです。お茶を出してくださいの前に、Kさんはミカンを一個、私の前に出して、「終わりはつもん、食べてくんない」と言われたのです。一瞬、なんのことだろうと思いました。

言うまでもなく、「終わりはつもん」という言葉は、この日、初めて耳にした言葉でした。

茶の間には、近くのT子さんがお茶飲みに来ておられました。すでにT子さんはミカンを食べ終わり、テーブルの上にはむいた皮が置いてありました。私の前に差し出されたミカンは、それこそ最後に残ったミカンだったのです。

私は、食べさせてもらっていいのだろうかと思っていたのですが、盛んに勧められるので、「最後の一個」をいただきました。ミカンの皮をむき、中の筋を丁寧に取り、実をばらし、何回かにわけて口の中に入れました。しばらく食べていなかったこともあり、美味しかったですね。もちろん、残さずに食べました。

茶の間で一緒にいた二人の女性はどちらも八〇代です。おそろく昔は、「終わりはつもん」という言葉をよく使っていたのでしよう。いまは、ほとんど使われなくなっただ言葉と思いますが、ちょっととした弾みで出たに違いありません。

二人の話を聴く中で、「終わりはつもん」とは「最後の一個」を言うのではなく、もう少し広くとらえた言葉であることがわかりました。野菜や果物などの食べ物が終わりの時期を迎えていて、初めて出てくるときと同じくらい、大事に味わって食べるものを言っているね。

ミカンを食べ終わったところで、Kさんがお茶を入れてくださいました。

お茶を飲みながら、話題になったのは母の実家の『のうの』（屋号）の伯父のことです。「『のうの』のじいちゃん、生きていなかったね」とT子さんに聞かれた私は、「いやいや、もう相当前に亡くなっているね」と答えました。

T子さんが伯父のことを言ってきたのは、伯父などと共に森林組合の草刈り仕事をしたことがあったからです。

「いつだったか、竹平で仕事をしていたとき、『のうの』のじいちゃんが、ひりはおらちで食べればいいこと、と誘ってくんたんだね」

T子さんの熱の入った話を聞きながら、私は、人懐こい顔をした伯父のしゃべる姿を久しぶりに思い出しました。

興味深かったのは伯父が自分の腕（時計）にぽんぽんと触る話。草刈り仕事をしていれば、振動病対策上、時どき、休む必要があります。それだけでも、時計を気にしなければならぬのですが、ほかにも気にする要因があったのです。それは、いつときでも早く、いっぶくの時間や昼飯の時間にならないかなという思いです。働き者の伯父にもそんな面があったとは……。

この日、私が初めて耳にした「終わりはつもん」という言葉はインターネットで紹介しました。すると、どうでしょう、「おわりはつもん、懐かしい。死語かと思っていたら、どっこい生きていた」「いい言葉ですね。私も使いますよ。今の方には解らないようですけどね」などといったコメントがいくつも寄せられました。

それらを読んだとき、私は「終わりはつもん」という言葉の中には、野菜であろうが果物であろうが、食べ物を大切にしている心があると感じました。いい言葉ですね。

## 畔や土手も掘り返す…イノシシ被害広がる

雪が少ないと喜んでいたら今度はイノシシがきた。市内各地でイノシシ被害にあった人たちから悲鳴があがっています。

被害の多くは田んぼの畦や土手を掘り返して壊してしまうというものです。このままでは春作業もできない、ぜひ災害復旧支援をという声もあがっています。写真は吉川区六万部の田んぼの畦です。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

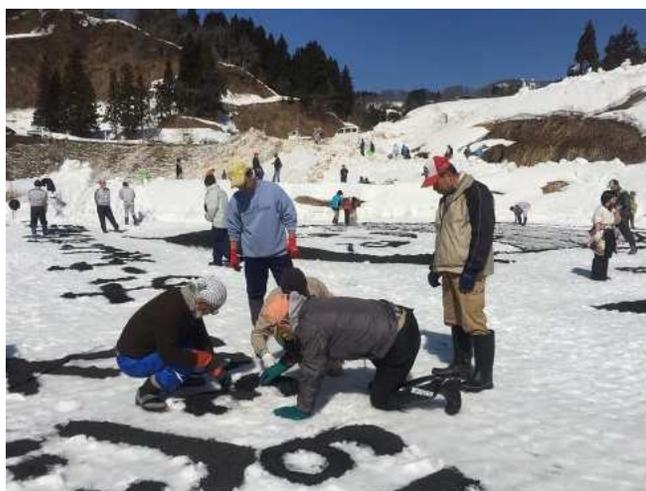
測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月6日(水)	3月13日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.057
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.057	0.050
名立分遣所	0.057	0.057

## 5回目の「はるのしらせinフジオ」

大島区藤尾で毎年行われている「はるのしらせinフジオ」に参加していただきました。全体で100人以上参加していただきましたね。



今年は見事な青空の下でアートづくりに精を出しました。大島区のゆるキャラ、「おーちゃん」を千コちゃん風に描いたもの、平成という時代に感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と描いたものなどが話題になりました。

終了後の懇親会。おにぎりとトン汁が美味しかった。